

学校の統廃合ではなく 新しきもの・より良きものを 将来的に中学校を1校・小学校を3～4校

創造したい とする素案 まとまる

素案の詳細は
市ホームページで公開



問合せ／教育総務課
学校再編推進室
(☎ 28 - 4377)

石井浩己教育長



今回の学校再編の取組は、少子化が進行するなかで、多様化する子どもたちの学習環境をどう充実させていくのか、子どもからお年寄りまで寄り添い暮らしていくなかで、学校を含めた公共施設の今後のあり方をどう考えていくべきか、それらの課題に向き合いながら、子どもたちや市民にとっての「最適解」を求めて検討を進めてきました。

これまで、市内各地で幾度となく積み重ねてきた意見交換会の中で、様々な声をいただきました。中には、数として多くはないものの切実な声もありました。こうした声に向き合い、不登校や特別な支援を必要とする子どもたちへの支援などを含め、より良い学習環境を整えていくための方策を考えてきました。

教育委員会では、今回の学校再編を単に学校の「統廃合」とは考えていません。統廃合ではなく『再編』であり、これまでの流れを大切にしつつ、その流れの先には『新しきもの』『より良きもの』を“創造”していきたい。こうした思いを有識者会議に伝え、具体化させる方法を盛り込んでいただきました。

ただし、これはあくまで“素案”であり、保護者や地域の方々と話し合うための“たたき台”です。そのため、これから市民の皆様と協議する中で修正していくことも考えられます。

上り坂の向こうにはより良き未来が広がることを信じ、そのために今の館山市で“成すべきこと、成さねばならないこと”をこの素案にて精一杯表現させていただきました。皆様にご理解いただき、共に進んでいければありがたく存じます。

最善な学校のあり方を市民と共に

市教育委員会では、少子化が急激に進行するなか、未来を担う子どもたちにより良い学習環境を提供するため、「将来に向けた学校のあり方に対する基本指針」（令和4年3月策定）に基づき、市内小中学校における学校再編の取組を推進しています。

同基本指針では、学校の小規模化に伴う学校運営を取り巻く様々な課題点について、一部の地域だけでなく「館山市全体の課題」として捉え、市内全ての小学校区単位（10地区）において今後の学校再編に向けた協議を同時並行により実施し、

令和6年度末までに具体的な再編内容や時期を定めた『学校再編計画』を策定することとしています。

これらを踏まえ令和4年10月には、市内10地区で学校のあり方を考える“組織”を立ち上げ、保護者の方々を中心に「子どもたちにとってより良い学習環境」をテーマに意見交換・協議を行い、学校再編に向けた各地区の保護者の意向を取りまとめてきました。

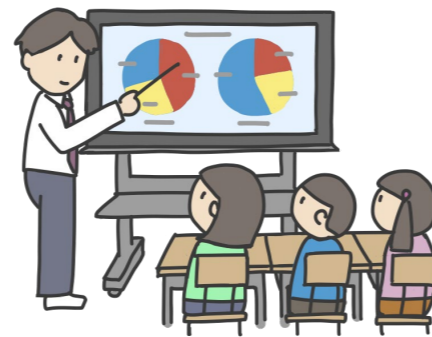
市の有識者会議である「館山市学校再編調査検討委員会」では、各地区との意見交換・協議結果を踏まえ、具体的な学校の再編内容や時期を含めた『館山市立小中学校再編計画』の素案を定め、各地区の保護者や地域の方々と意見交換・協議を行うこととなりました。今回、『館山市立小中学校再編計画』の素案についてお知らせします。

学校再編を通じて
目指すべきもの

子どもたちに より良い学習環境を提供

1. 多様性など新しい時代に対応するための環境へ

- 少子化の時代においても、一定の学校規模を継続的に維持し、子どもたちがより多くの友だちと触れ合い、新たな関係性を築く機会など様々な経験ができる学習環境を創り出していきます。
- 国が進める「教科担任制」の実施など、一定の学校規模による多様な学習環境を充実していきます。
- 安房地域で初となる「小規模特認校」を設置し、児童の特性に合った学校の選択肢を確保します。
- より専門性を高めた、不登校支援や発達支援機能を充実強化します。



2. 教育現場に対する投資の 「選択と集中」で学習環境を改善

- 施設数を絞り込むことで、学校施設全体の大規模改修や、外壁・屋根・床・トイレ設備など、必要な施設改修を適正な時期に実施します。
- 特別教室（理科室・図工室など）へのエアコン新設を目指します。
- 学童クラブの受入増加に対応するための新たな施設改修・整備を目指します。



3. 学習環境の質の改善

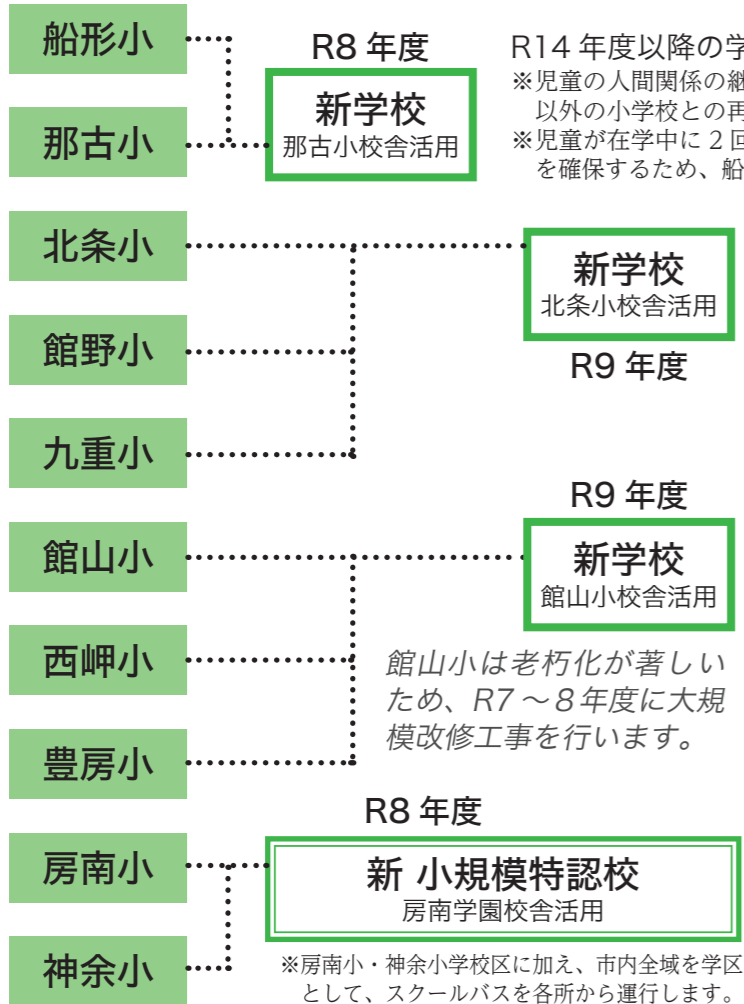
- 教職員の人的配置強化による、学習や生活環境の充実を図ります。
- ICT機材をはじめ、教材備品や図書類などの充実を図ります。



小学校の再編

基本方針

全小学校区における保護者との意見交換結果では、クラス替え可能な規模への再編を望む声が多数となりました。そのため、「標準規模校(1学年・2~3学級)」を中期的に維持するとともに、小規模校での教育環境を望む方々への選択肢を確保します。



R14年度以降の学校のあり方は、R12年度に再検討します。
 ※児童の人間関係の継続性を最優先に考え、第一中の統合前に第一中学校区以外の小学校との再編は行わない計画です。
 ※児童が在学中に2回の学校再編を経験しないよう、最低6年間以上の期間を確保するため、船形小・那古小の再編時期はR8年度とする計画です。

R7年度に館山中の移転やこども園の開園が予定されており、周辺道路環境の状況変化を踏まえ、必要な対策を実施したあと、新学校を開校します。



「小規模特認校」とは

少人数教育のメリット(児童に対するきめ細やかな指導、地域資源を活かした機動力のある体験学習など)や、恵まれた自然環境下での教育活動を望む児童・保護者の選択肢を確保します。

〈房南学園の選定理由〉

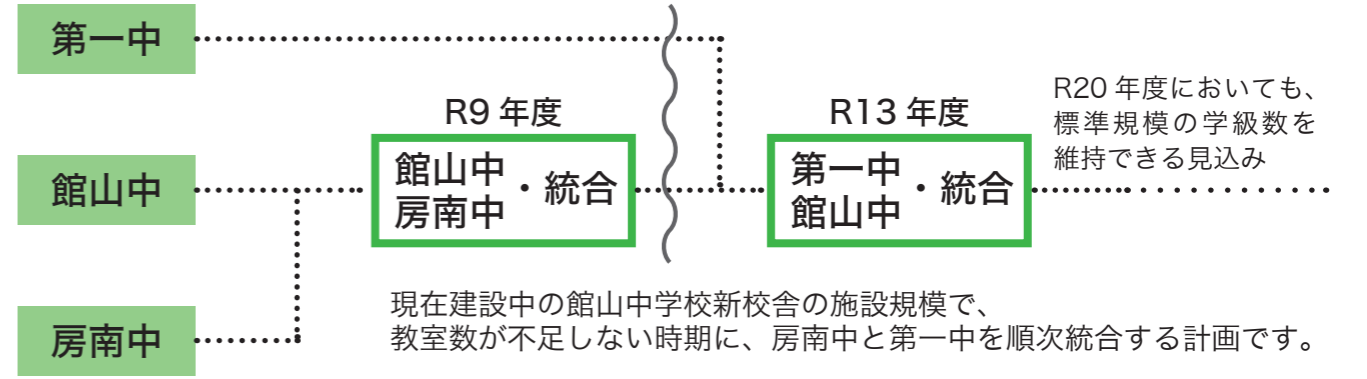
市内で一番新しい教育施設で、木質感のある校舎内部や最新設備の体育館・広い運動場・多様性を受入可能となるエレベータを完備するなど、学校施設環境が充実しています。また、現在の房南こども園を中学校施設内に移転し、幼保小一体となった教育環境の提供を目指します。

※房南小・神余小学校区に加え、市内全域を学区として、スクールバスを各所から運行します。

中学校の再編

基本方針

中学校の標準規模(1学年・4~6学級)を下回る、第一中・房南中学校区の保護者との意見交換では、小規模化に伴う課題点から「早期の再編」を望む意見が圧倒的に多く、市の基本指針や保護者意見を踏まえ、館山中との統合を行う計画(素案)です。



現在建設中の館山中学校新校舎の施設規模で、教室数が不足しない時期に、房南中と第一中を順次統合する計画です。

不登校・発達支援機能の充実策

○不登校支援機能

子どもが主体的に社会的自立や学校復帰に向かうよう、不登校のきっかけなどに応じた適切な支援や働きかけができる環境を整備します。

○発達支援機能

発達に課題を持つ子どもや保護者の相談窓口、各種支援機能の情報を一元化した「センター機能」の設置について検討します。



豊房小学校跡地を活用

市内の中心部に近いことや、豊かな自然環境を考慮しました。

少子化に伴い児童・生徒数は年々減少していますが、その一方で「不登校児童・生徒」や「特別な支援を要する子ども」は、全国的にも年々増加傾向にあります。現在それらの対策のため、コミュニティセンター内に「教育支援センター」や「マザーズホーム」などの専門的な支援機関を設置し、学習支援や集団生活への適応、医療やNPO団体など関係機関との接続・相談などを行っています。

しかし、広い運動場や体育館、校舎といった学校教育に必要な施設での支援を行うことが、子どもたちにとってより良い環境となるため、再編に伴い使用しなくなる施設を有効活用する計画です。

年齢	0才	1才	2才	3才	4才	5才
出生年度	R 4	R 3	R 2	R 元	H 3 0	H 2 9
小学校入学年	R 1 1	R 1 0	R 9	R 8	R 7	R 6
船形小	10 (4・6)	5 (4・1)	14 (8・6)	10 (5・5)	7 (6・1)	9 (4・5)
那古小	27 (14・13)	31 (17・14)	21 (10・11)	29 (22・7)	31 (14・17)	34 (18・16)
北条小	60 (33・27)	76 (38・38)	58 (21・37)	73 (45・28)	77 (46・31)	72 (41・31)
館山小	49 (20・29)	51 (27・24)	53 (28・25)	52 (36・16)	50 (22・28)	60 (32・28)
西岬小	7 (3・4)	2 (1・1)	9 (6・3)	3 (1・2)	5 (1・4)	9 (5・4)
神余小	2 (1・1)	0	3 (2・1)	1 (1・0)	0	1 (0・1)
豊房小	5 (3・2)	4 (2・2)	8 (4・4)	5 (3・2)	9 (6・3)	11 (6・5)
館野小	14 (6・8)	13 (5・8)	22 (12・10)	16 (10・6)	22 (12・10)	18 (13・5)
九重小	3 (1・2)	4 (2・2)	12 (6・6)	6 (3・3)	10 (5・5)	6 (5・1)
房南小	15 (8・7)	14 (7・7)	10 (4・6)	9 (2・7)	11 (5・6)	13 (6・7)
合計	192 (93・99)	200 (103・97)	210 (101・109)	204 (128・76)	222 (117・105)	233 (130・103)

※人数は「合計(男・女)」

	6才	7才	8才	9才	10才	11才		12才	13才	14才
	H 2 8	H 2 7	H 2 6	H 2 5	H 2 4	H 2 3		H 2 2	H 2 1	H 2 0
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生		中学1年生	中学2年生	中学3年生
第一中	10 (8・2)	15 (4・11)	20 (10・10)	12 (5・7)	21 (14・7)	22 (11・11)	第一中	54 (36・18)	66 (36・30)	54 (24・30)
館山中	23 (14・9)	29 (9・20)	36 (22・14)	46 (22・24)	44 (18・26)	26 (13・13)	館山中	248 (135・113)	246 (130・116)	224 (115・109)
房南中	8 (4・4)	4 (2・2)	5 (3・2)	7 (3・4)	8 (2・6)	7 (1・6)	房南中	20 (12・8)	27 (14・13)	27 (13・14)
合計	238 (144・94)	267 (124・143)	270 (139・131)	281 (152・129)	317 (163・154)	322 (146・176)		322 (183・139)	339 (180・159)	305 (152・153)

※特別支援学級の生徒は、現学年に含む

市内の未就学児の人数
 (令和5年4月1日時点)

市内の児童・生徒数
 (令和5年5月1日時点)